

元祿のはじめ、神田鍋町つゞら屋甚兵衛といふものはじめてこれを作る、此者元人形屋なり、張子細工よりもとづきて、經木を中へ入れ張立たる也。

〔調度口傳〕婚禮道具

一 黒。葛籠の事

長サ貳尺三寸、はゞ一尺四寸三分深サ一尺二寸、ふた一はいにして、たんぬり金紋、又ふちを黒くぬりてまき繪などあり、世に万年つゞらと云、

〔七十一番歌合〕下 五十三番 左 葛籠造

四十九ゐてんやにみゆるうりつゞらさし出はめる軒の月影
我戀はまださらされぬ青つゞらくるとはすれどさねしよぞなき

〔人倫訓蒙圖彙〕^六葛籠師 下地は近江若狹薩摩より造出す、室町通一條の上にて是を造る、

〔毛吹草〕^三山城 室町塗葛籠 安藝 葛籠

〔元祿五年〕萬買物調方記〕京ニテつゞらや

寺町蛸薬師下ル町 仕立中買 同四條下ル町わはご ぬり仕立や 烏丸中立賣下三

丁目 同 室町一條上ル町 同つゞらくみ下地 高くら高辻下ル町

大坂ニテつゞらや

平の町堺すち西入 住吉や長兵衛 難波はしすぢ

〔江戸總鹿子〕^六葛羅屋

日本橋南三丁目 仁兵衛 同南四丁目 庄右衛門 南傳馬町一丁目 仁左衛門

〔藝備國郡志〕^上安藝〕土産門

葛藤箱 佐東郡夜須之人、以藤製筐篋、俗曰津々羅、或納衣服、又入雜具矣、